

動く！美術

動きはどう表現されてきたか

Motion in Art

Visual Experiments in Expressing Motion



1) 藪内佐斗司《犬モ歩ケバ》1989年

本展のみどころ

「特集」では、美術の中の「動き」に着目します。動き回る人物や動物、多様性に満ちた自然の営み—本来「動かない」美術においてこれらの動きはどのようにとらえられているのでしょうか。絵画や立体作品における「動き」の表現について考えます。

そのほか、館所蔵の版画、彫刻、洋画、日本画も展示、「小磯良平記念室」「金山平三記念室」での展示もあわせ、当館の多彩なコレクションを紹介します。

展覧会概要

兵庫県立美術館では、前身である兵庫県立近代美術館（1970年開館）から継続的に作品収集を続け、これまでに収蔵された作品数は10,000点以上にのぼります。今年度第1期のコレクション展は、以下の構成で当館の多彩なコレクションを紹介します。

1. 特集 動く！美術—動きはどう表現されてきたか—（常設展示室1～3）
2. 表現主義の版画（常設展示室4）《前期》
3. 近現代の彫刻（常設展示室5）
4. 洋画・日本画の名品—時代は動く、美術も動く—（常設展示室6）
5. 小磯良平記念室 金山平三記念室

さらに第1期の後半では毎年恒例の小企画「美術の中のかたち—手でみる造形」を開催。（常設展示室4）《後期》

開催情報

2020年 コレクション展 I

【特集】動く！美術—動きはどう表現されてきたか—

Motion in Art— Visual Experiments in Expressing Motion

会期 2020年3月20日(金・祝)～9月22日(火・祝)
 前期：3月20日(金・祝)～6月28日(日)
 後期：7月11日(土)～9月22日(火・祝)
 ※6月29日(月)～7月10日(金)は展示替えのため休室

開館時間 午前10時～午後6時(特別展開催中の金・土曜日は午後8時まで) ※入場は閉館の30分前まで

休館日 月曜日
 ※ただし5月4日(月・祝)、8月10日(月・祝)、9月21日(月・祝)開館、5月7日(木)、8月11日(火)休館

会場 兵庫県立美術館(〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1)
 1階 常設展示室1、2、3、4(※)、5
 2階 小磯良平記念室、金山平三記念室、常設展示室6
 ※常設展示室4では後期に「美術の中のかたち—手でみる造形」を開催

主催 兵庫県立美術館

協賛 公益財団法人伊藤文化財団
 株式会社ハーフ・センチュリー・モア(サンシティタワー神戸)

観覧料金

[その他割引適用料金]

区分	当日	団体 (20名以上)	特別展との セット料金
一般	500円	400円	300円
大学生	400円	300円	200円
高校生以下	無料	無料	無料

区分	当日	団体 (20名以上)	特別展との セット料金
70歳以上	250円	200円	150円
障がい者 一般	100円	100円	50円
障がい者 大学生	100円	50円	50円

※一般以外の料金には、証明できるものご提示が必要です
 ※障がいのある方1名につき、介護の方1名は無料
 ※毎月第2日曜日は公益財団法人伊藤文化財団のご協力により無料

※【小企画】「美術の中のかたち—手で見る造形—東影智裕展(仮題)」開催の後期展示は、障がい者およびその介護者1名は無料です。

展覧会構成

1. 【特集】動く！美術—動きはどう表現されてきたか（常設展示室1～3）

「特集」では、美術の中の「動き」に着目します。動き回る人物や動物、多様性に満ちた自然の営み—これらは、本質的に「静態的」なものである美術においてどのように作品化されているのでしょうか。絵画や立体作品の中でとらえられた様々な動きの表現を考えます。

第1章 命の鼓動—動く人・動く動物—

人や動物の動きは美術の中でどのように表現されているのでしょうか。本章では、労働や舞踊など運動する人体や動き回る動物など、動く人や動物を描いた作品を展示します。本来動きそのものを再現することができない絵画や彫刻において、さまざまな「動き」とその表現に着目してみましょう。



3) 金山平三《無題（港）》1913-1915年



2) エドガー・ドガ
 《腕を前に上げて進む踊り子》1882年頃

第2章 うつろう自然

—ゆらめく水 かがやく光 そよぐ風—

この章では、自然の形象や現象に注目します。私たちをとりまく自然は、一日の時間、季節により刻々と変化しています。美術において、時間の経過とともにうつろいゆく自然の様相は、さまざまなかたちでとらえられてきました。刻々と姿を変える自然すなわち自然界の運動をとらえようとした作品や、自然界の多様性に着想した独創的な世界を創り出している作品を紹介します。

第3章 奔る線 踊る色彩

1940年代後半から50年代初頭にかけておこった、アンフォルメルや抽象表現主義といった一連の動向において、絵画平面はイメージの支持体としてだけでなく、「出来事が生起する場」としてとらえられるようになりました。これらの絵画では描く行為自体が重視され、筆を動かしたり絵具を垂らしたりする身体の運動の痕跡が作品として提示されています。ここで紹介する作品では、絵具等に加えられた運動（＝力）が造形物となり、物質を介した圧倒的なエネルギーが直接的に観る者に突き付けられています。



4) 白髪一雄《黑暗天女》1984年

第4章 天のしるし

人ははるかなる天空を見上げ、そこからもたらされるしるし一星の輝きや惑星の運行、雲の動きや太陽、月、星のかがやきや惑星の運動—にさまざまに思いを馳せてきました。美術においてもまた、天空そして天を動かす根元的な力としての重力もまた美術家たちの創造の源となっています。ここでは動かない視覚芸術の中に天空のダイナミクスを表そうとした作品を紹介します。



5) 野村仁
《'Grus' Score 010 Feb. 11, 2004 07:21》2004年

2. 表現主義の絵画（常設展示室4） 前期のみ（3月20日[金・祝]～6月28日[日]）



6) エミール・ノルデ《汽船（大きく暗い）》1910年

開館以来、当館では、近現代の版画を収集の中心のひとつにしてきました。今回の展示ではケーテ・コルヴィッツ、エミール・ノルデ、エゴン・シーレなど、20世紀前半に活躍した作家たちの作品を中心に表現主義の版画を紹介します。



東影智裕《境界 camel d-007》2013年 作家蔵

【小企画】

「美術の中のかたち—^{ひがしかげともひろ}一手で見る造形—東影智裕展（仮題）」
（常設展示室4）

後期のみ（7月11日[土]～9月22日[火・祝]）

1989年に始まった触覚でも作品を鑑賞できるこの企画。今年は、東影智裕（1978-）の作品を紹介します。毛穴や体毛まで極めて精巧に表現された動物の頭部のような作品は、時に舐まれた皮膚やその漆黒の瞳の表現と相まって、見る者に深い洞察をもたらします。作品に直接触れることで、作家の造形思考や行為をより身近に感じられる場を提示します。

《詳細は5月頃、別途資料配布の予定》

関連事業

○アーティスト・トーク

出品作家が、作品の制作や素材についてお話をします。

講師：東影智裕（出品作家）

日時：7月11日（土）午後2時～午後3時

会場：当館レクチャールームにて（定員100名） *兵庫県立美術館「芸術の館友の会」会員優先座席あり

参加費：聴講無料

3. 近現代の彫刻（常設展示室5）

近現代の彫刻も、当館の収集の柱のひとつです。今回は、特集のテーマにちなみ、「動き」と関係のある作品を紹介します。ダイナミックな動作だけでなく、それとは逆の静止状態を強調した作品、あるいは心理的な情動を表現した作品など、様々な「動き」の相をご覧ください。



7) オーギュスト・ロダン《オルフェウス》1892年



8) 阿部合成《見送る人々》1938年

4. 洋画・日本画の名品一時代は動く、美術も動く— （常設展示室6）

当館が所蔵する絵画コレクションのハイライトをご紹介します。日本に「美術」が輸入された明治期から、太平洋戦争を経て戦後まで、激動の時代に生まれた表現が並びます。



5. 【小磯良平記念室】

気品のある優美な女性像で知られる近代日本洋画の巨匠、小磯良平（1903-1988）。今回は、美術学校を卒業後、ヨーロッパ滞在を経て独自の画風を確立した昭和初期（1930年代）の作例を中心に展示します。

9) 小磯良平《娘》1935年



10) 金山平三《下諏訪のスケートリンク》1922年頃

6. 【金山平三記念室】

金山平三（1883-1964）は神戸に生まれ、日本各地を旅し、四季折々の日本の風景を描いたことで知られる洋画家です。今回は、特に季節の描写に注目して展示を構成。特集にあわせ、1932（昭和7）年ロサンゼルス・オリピックの「オリンピック絵画競技展覧会」出品作も出品します。

関連事業

(1) 学芸員によるギャラリートーク

日時：4月25日(土)、6月13日(土) 午後4時より(約45分)

場所：常設展示室

※聴講無料、要観覧券、常設展示室入口付近集合

(2) ミュージアム・ボランティアによるガイド・ツアー

日時：会期中の金・土・日曜の午後1時より(約45分)

場所：常設展示室

※聴講無料、要観覧券、常設展示室入口付近集合

※3月中については、新型コロナウイルス感染症のリスクを考慮し、中止とします。

(3) こどものイベント

日時：6月6日(土) 時間、場所未定

※詳細は1ヶ月前にホームページにてお知らせします

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

TEL: 078-262-0901 (代) FAX: 078-262-0903 (代)

<https://www.artm.pref.hyogo.jp>

取材・画像提供に関すること

営業・広報担当

TEL: 078-262-0905 (担当直通) FAX: 078-262-0903

展示内容に関すること

担当学芸員：飯尾由貴子、岡本弘毅、江上ゆか

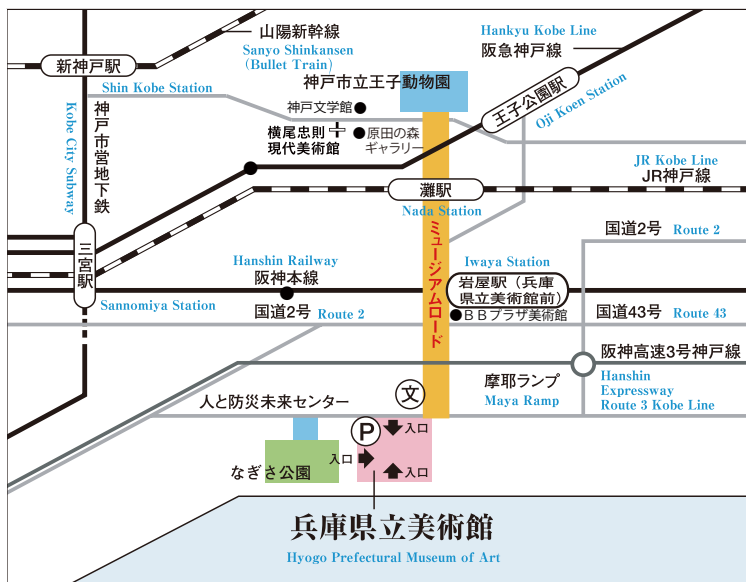
美術の中のかたち展 担当学芸員：村田大輔

e-mail: iio@artm.pref.hyogo.jp (主担当：飯尾)

TEL: 078-262-0909 (学芸直通) FAX: 078-262-0913 (学芸直通)

【交通案内】

- ・ 阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から南に徒歩約8分
 - ・ JR神戸線灘駅南口から南に徒歩10分
 - ・ 阪急王子公園駅西口から南西に徒歩約20分
 - ・ JR三ノ宮駅南から神戸市バス（29、101系統）阪神バスにて約15分
HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ
 - ・ 地下駐車場（乗用車80台収容・有料）
- *ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください
- *団体バスでお越しの場合は、バス待機所のご予約をお願いします。



画像使用に際しての注意

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。末尾の「申込書」をご使用ください。

○作品画像を媒体掲載される際には、「申込書」に記載の作品名・制作年・所蔵などを必ず入れてください。

○作品画像は全図で使用してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・変更はできません。

○画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません（会期終了まで）。

○再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。

○雑誌の表紙などに使用される場合は、「営業・広報担当」までご相談ください。

○WEBサイトに掲載する場合は、画像を72dpi以内に設定のうえコピーガード（※右クリック不可）を施しダウンロード不可にしてください。

○基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で「営業・広報担当」までお送り願います。

○展覧会場の取材、撮影をご希望の場合についても、「営業・広報担当」までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。

○本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体（VTR/DVD）、URLなどを、「営業・広報担当」宛てに、1部お送りくださいますようお願いいたします。

広報画像申込書

2020年 コレクション展 I

特集 動く！美術—動きはどう表現されてきたか—

Motion in Art— Visual Experiments in Expressing Motion

※前頁「画像使用に際しての注意」をご一読のうえ、ご希望の画像の番号に○をつけてください。

1) 藪内佐斗司《犬モ歩ケバ》1989年

2) エドガー・ドガ《腕を前に上げて進む踊り子》1882年頃

3) 金山平三《無題（港）》1913-1915年

4) 白髪一雄《黒暗天女》1984年

5) 野村仁《'Grus' Score 010 Feb. 11, 2004 07:21》2004年

6) エミール・ノルデ《汽船（大きく暗い）》1910年

7) オーギュスト・ロダン《オルフェウス》1892年

8) 阿部合成《見送る人々》1938年

9) 小磯良平《娘》1935年

●貴媒体についてお知らせください。

○貴社名：

○媒体名：

(新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・ウェブサイト・その他)

※ウェブサイトへ掲載ご予約の場合、いずれかに○をつけてください。 コピーガード対応 可 ・ 不可

○ご担当者名：

○メールアドレス：

ご連絡先 ○電話番号：

○FAX 番号：

○ご住所： 〒

○URL：

○掲載・放送予定日：

○画像到着希望日：

○読者・視聴者プレゼント用招待券： 組 名 様分を希望

(最大5組10名まで。本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです)